

平成22年度 農林総合研究センター課題内部評価結果 (事前評価)

- 1 評価実施組織 農林水産技術会議農林部会
 2 評価方法 農林水産部所管試験研究評価実施要領に準じる
 3 評価の経過 各専門部会で協議し、農林水産技術推進会議農林部会に報告・承認
 4 評価区分 事前評価
 5 総合評価 「採択したほうがよい」、「部分的に検討する必要がある」、「採択すべきでない」の3区分
 「部分的に検討する必要がある」、「採択すべきでない」と評価された課題は「所見・指摘事項等」と「指摘事項等に対する対応」を記載
 6 評価結果 下記の通り

課題 No.	研究課題名	研究期間	研究の概要	総合評価
1	落葉果樹の高品質・安定生産技術の確立	H23～25	温暖化に伴い千葉県南部ではニホンナシの開花期の遅延が予測されている。そこで、シアナミド剤の開花期を前進化させる効果について調査する。また、改植時に早期に発芽されることで初期生育を向上させることが期待される。そこで、苗木をシアナミド剤で処理して葉芽の発芽を促進し、初期生育に及ぼす効果を明らかにする。開花期が前進化することで有利販売を行えるようになり、改植を円滑に行うことで産地における生産振興が図れる。	採択した 方がよい
	落葉果樹の高品質果生産技術の確立			
	シアナミド剤処理による成木の開花期前進化と若木の生育促進技術の確立			
2	花植木の安定生産技術の確立	H23～25	都市緑化の現場では、芝のように運搬・施工性が良い植物、施工後の傷みが少ない強健な植物、並びに植栽後短期間で緑化が完成する植物が求められている。そこで、マット植物の利用場面拡大と更なる商品性の向上を図るため、ロールマット等新形態の緑化植物を検索し、ロールマット化のための技術を開発する。ロールマット植物など新形態の緑化素材の開発や栽培技術が確立されることによって、本県オリジナルな緑化資材として生産振興に寄与できる。	採択した 方がよい
	新形態の緑化素材の効率的生産及び利用技術の開発			
	新形態の緑化素材の探索と効率的生産技術の開発			
3	高品質生産をめざした病害虫管理技術の確立	H23～25	南房総市の特産花きホワイトレースフラワーに黄斑症が多発している。原因は予備試験によってStemphylium属菌と推測される。そこで、ホワイトレースフラワーの生産安定を図るため、病原菌の分離と症状の再現、再分離を行って原因を特定するとともに、本病の伝染経路や伝染方法などの発生生態を明らかにし、防除対策を確立する。これにより、産地の活性化が期待できる。	採択した 方がよい
	新発生病害虫の発生生態の解明と防除技術の開発			
	ホワイトレースフラワーに発生した黄斑症の原因究明と防除技術の確立			

課題 No.	研究課題名	研究期間	研究の概要	総合評価
4	高品質生産をめざした病害虫管理技術の確立 難防除病害虫の発生態の解明と防除技術の開発 ナシ萎縮病菌Fomitiporia sp. の菌学的諸性質の解明	H23～25	ナシ萎縮病の病原菌であるFomitiporia sp. の効率的な同定、検出技術を構築するとともに、菌学的諸性質を解明する。	採択した方がよい
5	水稻の新品種育成と導入・選定 水稻の新品種の育成 収穫の早期化と期間拡大のためのうるち品種の育成	H23～27	現場から要望の高い、早生の「ふさおとめ」よりさらに7日程度熟期が早い極早生の良質・良食味うるち品種を育成することを目的とする。出荷の早期化（8月上中旬）による米の販売戦略の多様化や、収穫労力の分散による大規模化の支援が見込まれ、本県稲作の持続、発展に寄与することができる。また、消費者にいち早く良質な本県産の新米を届けることができる。	採択した方がよい
6	水稻の新品種育成と導入・選定 水稻の新品種の育成 酒造好適米用品種の育成	H23～27	本県のような早期栽培では、登熟期が高温のため既存品種では大吟醸酒の醸造に向く酒米の生産は難しい。このため、実需者から新品種の育成が望まれている。そこで、本県で栽培しても高度精白が可能な大吟醸酒向きの酒造好適米品種を育成する。新品種の育成により、さらに幅広い酒質の銘柄の開発が可能となり、県産清酒に対する認知が進み、千産千消をとおして地域農業がさらに活性化するものと期待される。	採択した方がよい
7	水稻の新品種育成と導入・選定 水稻の新品種の育成 早生もち品種の育成	H23～27	穂発芽しやすい「ヒメノモチ」にかわる、栽培しやすく、玄米品質や餅質が良好な早生もち品種を育成することを目的とする。本県産の早生もちは、他県に先駆けて9月に出荷される点や、うるち品種の前に収穫するため、うるち米の混入が少ない点が流通業者から評価されている。新品種の育成により本県産の早生もち米の評価がさらに向上する。	採択した方がよい
8	水稻の新品種育成と導入・選定 育成系統の特性及び地域適応性の検定 地域適応性検定試験	H23～27	本県に広く普及する品種を育成するため、生育環境の異なる3か所（利根川沿岸や九十九里地域、内湾地域）で育成系統を栽培し、地域適応性を明らかにする。これにより、全県に普及しうる有望系統（奨励品種決定調査供試系統）が選抜できる。	採択した方がよい

課題 No.	研究課題名	研究期間	研究の概要	総合評価
9	水稻の新品種育成と導入・選定 優良品種・系統の選定 水稻奨励品種決定調査	H23～27	消費者や生産者のニーズに応えることのできる奨励品種を選定する。環境負荷を軽減できる減化学肥料・減農薬栽培向けの品種や8月中旬に収穫できる極早生の品種等を選定する。これにより安心・安全な食糧を求める消費者の声に応えるとともに、規模拡大を志向する担い手を収穫期間の拡大という面から支援することもできる。	採択した方がよい
10	畑作物の新品種育成と導入・選定 畑作物の優良品種の選定・選抜及び育成 カンショ優良品種の選定と栽培法の確立	H23～27	千葉県におけるカンショの生産は、作付面積4,920ha（全国第3位）、産出額202億円（同第1位）である。主力品種の「ベニアズマ」はつる割病に弱く、形状が乱れやすい、「高系14号」は立枯病に弱く、丸いものになりやすいなどの問題がある。そこで、当センター及び独法のカンショ育種期間で育成された品種・系統の中から、本県に適した優良品種・系統を選定し、その栽培法を明らかにすることで本県カンショの生産基盤の強化につながる。	採択した方がよい
11	畑作物の新品種育成と導入・選定 畑作物の優良品種の選定・選抜及び育成 カンショ主要品種のウイルスフリー基核株の育成	H23～27	カンショ主要品種について、外観形質のほか食味や貯蔵性等が優れたウイルスフリー系統を育成し、JA全農ちばを通じて苗を生産者に配付する。これにより、これまで以上に良質なカンショ生産が可能となり、市場や消費者の評価を高め、さらなる経営及び地域農業の発展を図ることができる。	採択した方がよい
12	畑作物の新品種育成と導入・選定 畑作物の優良品種の選定・選抜及び育成 落花生奨励品種決定試験	H23～27	千葉県における落花生の生産は、作付面積5,930ha、産出額62億円でいずれも全国第1位である。主力品種の「千葉半立」は収穫期が遅く、「ナカテユタカ」及び「郷の香」は収穫遅れによる食味低下などの問題がある。そこで当センター畑作物育種研究室落花生試験地で育成された系統の中から、上述の問題点を改善した本県のマルチ栽培に適する高品質・良食味系統・品種を奨励品種候補として選定することで、本県産落花生の更なる消費拡大と落花生生産者の農業生産基盤の維持強化に寄与する。	採択した方がよい
13	無農薬による校庭等の芝草総合管理技術の開発 害虫・雑草防除技術の開発 芝草で問題となるチョウ目害虫に有効な微生物農薬開発のためのBt細菌の選抜	H23～24	芝草圃場で問題となるチョウ目害虫に有効な微生物農薬を開発するために、Btライブラリからシバツトガ等に対する殺虫活性が既存のBT剤よりも高い新規Bt細菌株を選抜し、その防除活性を確認する。課題終了後に、選抜したBt細菌株を用いた微生物農薬開発に取り組むことで、環境負荷を軽減した害虫管理技術として県内及び全国の芝草圃場管理者が利用可能となる。	採択した方がよい

課題 No.	研究課題名	研究期間	研究の概要	総合評価
14	森林の水土保全及び防災機能維持増進技術の確立 海岸低湿地に造成した海岸防災林管理技術の確立 盛土を用いない経済的なクロマツ海岸防災林造成技術の確立	H23～27	クロマツ海岸防災林において経費節減に配慮した盛土を用いない造成方法を開発する。このため、過湿により不成績造林地となった箇所の植生と土壌を調査し造成可能地の判定方法を明らかにするとともに、有効土層別の林分構造を明らかにし有効土層に対応した目標林型を設定する。成果は海岸防災林造成の経費節減に寄与する。	採択した方がよい
15	競争条件の変化に対応した農産物マーケティング・システムの構築 サツマイモの食味を重視したマーケティング戦略の構築 食味特性からみたサツマイモ品種のポジショニングと簡易食味評価法の開発	H23～25	新品種等を活用した産地育成に対応するため、県内で栽培される品種を供試し、糖含量や肉質を調査することで食味特性を明らかにし、併せて品種のポジショニングを実施する。また、産地が食味向上を目指した栽培改善を目的に利用できる食味評価法を開発する。これにより、新品種等を導入した産地マーケティングの方向性が明確になり、良食味を目指した栽培技術改善への意欲が向上する。	採択した方がよい
16	競争条件の変化に対応した農産物マーケティング・システムの構築 サツマイモの食味を重視したマーケティング戦略の構築 サツマイモの消費者ニーズと食味評価を重視したマーケティング戦略の構築	H23～25	サツマイモの食味評価を組み込んだ産地マーケティング戦略を構築するため、消費者グループインタビュー、アンケート、量販店関係者への聞き取り調査を行い、食味評価、栽培に関する研究成果と連携して、消費者の嗜好の違いを踏まえた品種選択や購入行動に対応した店頭表示のあり方を示す。	採択した方がよい
17	競争条件の変化に対応した農産物マーケティング・システムの構築 サツマイモの食味を重視したマーケティング戦略の構築 食味を重視したサツマイモの栽培法の確立	H23～25	食味の良いサツマイモを生産するため、土壌肥沃度や施肥量が異なる現地及び場内圃場において「べにはるか」を中心とした栽培を行い、良食味生産に結びつく肥培管理法を確立する。肥沃度に応じた肥培管理法が明らかとなり、良食味サツマイモの安定生産により、有利販売が可能となる。	採択した方がよい
18	バイオマス資源の活用技術の確立 木質バイオマス利用による低炭素社会を目指した施設園芸の確立 施設園芸におけるペレットボイラーの利活用技術の開発 ハウスのトマト栽培におけるペレットボイラー利活用技術の確立	H23～26	トマト栽培におけるペレットボイラー（温風式）の利用技術を確立するため、本県初の実用規模でのペレットボイラー導入ハウスを設置し、トマトの生育及び収量、並びにランニングコストや使い勝手について灯油温風暖房機との比較を行う。トマト栽培におけるペレットボイラーの利用技術が明らかになることで現地への導入が進み、CO2の「みえる化」及びオフセット・クレジットにより千葉県施設園芸農産物をアピールできる。	採択した方がよい

課題 No.	研究課題名 大課題 中課題 小課題 細目課題	研究期間	研究の概要	総合評価
19	バイオマス資源の活用技術の確立 木質バイオマス利用による低炭素社会を目指した施設園芸の確立 施設園芸におけるペレットボイラーの利活用技術の開発 ペレットボイラーから排出される燃焼灰の化学肥料代替資材としての利用法の確立	H23～26	県内木質バイオマス利用による低炭素社会を目指した施設園芸の確立を図るために、木質バイオマスのペレット化、ハウスのトマト栽培におけるペレットボイラーの利用、LCA手法を用いた環境影響評価に関する研究を行う。本課題では、ペレットボイラー燃焼灰の化学肥料代替資材としての利用技術を開発する。	採択した方がよい
20	バイオマス資源の活用技術の確立 木質バイオマス利用による低炭素社会を目指した施設園芸の確立 木質バイオマス活用施設園芸におけるLCA（ライフサイクルアセスメント）手法を用いた環境影響評価	H23～26	ハウスのトマト栽培におけるペレットボイラー活用が環境に及ぼす影響を明らかにするため、木質バイオマス伐採から、ペレット化、ペレットボイラーでの燃焼、燃焼灰利用までの一環したプロセスにおける環境への影響を、ライフサイクルアセスメント（LCA）により評価する。また、技術普及上の観点から経営的評価を行う。	採択した方がよい
21	花植木の安定生産技術の確立 特産園芸作物におけるLED光源を利用した新たな生育調節技術の確立 切り花類におけるLEDを用いた電照栽培技術の確立	H23～25	ストック、カーネーションにおいてLED光源を用いた電照栽培を行い、LED光源の光質、電照処理開始時期および処理期間の影響を解明し、開花が揃い、高品質、高収量生産技術につながる生育制御技術を確立する。千葉県産切り花類の生産振興が図られる。同時に光源としてエネルギー効率が高いLEDを用いることにより、省エネルギーが推進され環境にやさしい農業生産体系の確立に寄与する。	採択した方がよい
22	花植木の安定生産技術の確立 特産園芸作物におけるLED光源を利用した新たな生育調節技術の確立 鉢花類におけるLEDを用いた生育制御技術の確立	H23～25	LEDの各波長域をベゴニア、鉢物カーネーション、鉢物トルコギギョウに照射し、有効波長域や照射量、時期、位置等を検討することで電照、補光の効果が生育・開花に及ぼす影響を明らかにするとともに、省エネ型高品質安定生産技術を確立する。これにより、低炭素時代を迎え、鉢花生産における新たなブランド作りに寄与できる。	採択した方がよい
23	施設野菜の高品質・高生産性技術の確立 特産園芸作物におけるLED光源を利用した新たな生育調節技術の確立 イチゴ促成栽培におけるLEDを用いた生育制御技術の確立	H23～25	白熱灯による電照栽培が行われているイチゴについて、LEDを用いた電照、補光が生育・収量に及ぼす影響を明らかにし、多収生産に向けた生育制御技術を開発する。 単波長の照射が可能なLEDを用いて、イチゴの促成栽培における花房の発達に有効な波長域、照射時間、照射時期等について明らかにする。	採択した方がよい

課題 No.	研究課題名	研究期間	研究の概要	総合評価
24	高品質生産をめざした病害虫管理技術の確立 「ネギベと病防除支援情報システム」の構築 「ネギベと病防除支援情報システム」の開発と薬剤防除技術の確立	H23～25	ネギベと病の発生を予測するために、気象データ等に基づいてネギベと病の感染危険日等を示す「ネギベと病防除支援情報システム」を開発し、このシステムを活用した効果的な薬剤防除技術を確立する。農林振興センターまたはJAにおいて、開発したシステムにより地域のネギベと病の感染危険日を予測し、生産者に予防的な薬剤散布の必要な時期を知らせることができ、それにより秋冬ネギの安定生産につながる。	採択した方がよい
25	高品質生産をめざした病害虫管理技術の確立 「ネギベと病防除支援情報システム」の構築 ネギベと病遺伝子診断技術の開発	H23～25	本課題では、遺伝子増幅法を用いたネギベと病菌の検出手法を開発し迅速かつ高感度な診断方法を確立する。そのためには千葉県内で発生したべと病菌のDNA塩基配列を解析し種特異的プライマーを作製する。また、感染したネギからべと病菌のDNAを効率的に抽出する方法を開発する。これらの成果を組み合わせて、感染初期のネギからべと病菌を検出する技術を開発する。これにより迅速・的確な診断及び発生状況の把握が可能となる。	採択した方がよい
26	高品質生産をめざした病害虫管理技術の確立 「ネギベと病防除支援情報システム」の構築 ネギベと病に対する品種間差及び肥培管理の影響	H23～25	平成22年冬季にネギベと病が多発し、防除対策について試験研究要望課題として提示された。ネギベと病の防除は初期発生の予防的な薬剤防除が効果的であるため、発生予測システムの確立や診断方法の開発が求められる。また、べと病が発生しにくい品種の導入、栽培法の確立が望まれている。そこで、ネギベと病発生の品種間差異を明らかにし、発生を軽減する栽培法を確立し、発生予測システムを活用した防除技術の実証を行う。	採択した方がよい